

# 「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

## 「適正就学に向けて」

次年度の就学先を決める時期が近付き、保護者との就学相談が増えてきました。「通常の学級にするか、支援員配置をお願いするか、それとも特別支援学級や特別支援学校にするかで迷っています」という切実な悩みが聞かれます。どの学校・学級を選んでも特別に支援を受けられますが、学びの場によって支援の程度・内容は大きく異なります。子どもにとってどこが合っているか、保護者が答えを見付けることは難しいものです。

### 1 相談中の保護者の様子

- ・できればみんなと同じ通常の学級で学んでほしい気持ち強い。
- ・夫婦であっても意見が食い違っている。(父親は楽観的、母親は悲観的)
- ・就学先の種類や支援内容等、たくさんの情報を知りたがっている。
- ・すでに答えをもっているが、最後に後押しをしてくれる一言を求めている。
- ・同居している、あるいは近くに住む祖父母の理解を得ることができずに悩んでいる。
- ・特別支援学級に入れたいが、在籍している兄弟がからかわれることを心配している。
- ・地域性や仕事等を考えると、特別支援学級には入れたくない。
- ・主治医や家族とも相談して、特別支援学級を希望することを前向きに考えている。



### 2 相談で伝えていること

- ・就学先決定までの流れや就学先の選択肢をはじめ、特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室の教育課程の特色について、イラストや図に示している。
- ・特別支援学校や特別支援学級を希望する場合は、子どもと一緒に学校見学を行い、学校の雰囲気を体感するとともに、子どもの反応を見てほしい。
- ・子どもが検査を受けている場合は、その数値の意味や発達レベル、予想される学習・行動面の困り感を具体的に説明している。
- ・入学(合格)がゴールではなく、入学(合格)後の生活や将来の自立を見据えて考える視点をもつ。
- ・就学先決定後も、毎年柔軟に就学先を見直していくことができるので、子どもの成長に合わせて学校と相談してほしい。
- ・通常の学級から特別支援学級に変更する場合は、子どもが納得できる説明をする。
- ・つまずいてから就学先を変更すると学習意欲や自己肯定感の低下につながることで、年度途中で特別の場の調整は難しいことから、最初は手厚い支援が受けられる環境でスタートすることを勧めている。(保険を掛ける)

これから子どもの就学・進路先決定に向けて、保護者が一年で最も悩む時期になります。本人及び保護者の意見を最大限尊重しなければなりません。子どものありのままの姿、テストや検査等の客観的なデータも参考にして、適正就学に向けて合意形成を行えるようにしたいものです。



**とれたて直送便**



「同時処理が苦手な子どもが多い」

複数の物事への注意の分配が難しいため、マルチタスクが苦手な子どもがいる。ノートに書いているときに話し掛けられたり、同時に複数の指示を出されると前の指示を忘れてしまったりするなど、同時に複数の活動を行うことが難しい。例えば、授業中、子どもが書いているときは話し掛けない、大事なことを伝えるときは鉛筆を置くように指示をしてから話すことを徹底してほしい。